

令和2年 第14回 教育委員会定例会議事録

招集日時 令和2年10月22日（木曜日）午前10時30分開会／午前11時45分閉会

招集場所 中央図書館2階 視聴覚ホール

教育長 山田利明

出席委員 篠原隆一、山下裕嗣、疎幹子、佐野明子

会議列席者 梶谷事務局長、公下次長兼学校指導課長、渡部教育庶務課長、宮下生涯学習課長、
宮本教育総合支援センター所長、田中スポーツ推進課長、田中教育庶務課主査

令和2年第14回教育委員会定例会開会宣言

挨拶

○山田教育長 連日の計画訪問、皆様本当にありがとうございます。子ども達の様子、先生方の様子、本当に頑張っている姿が見られて、私も学校に出かけるのが楽しみな状況であります。残念なことといたしますが、先々週、先週末に爆破予告が2回ありました。学校の方はその対応で追われておりました。そして先週中頃には、これは本当にあってはならない行為ですが、山中中学校の教諭が起こした大事件ということで、学校、市教委、県教委も含めてですが、その対応に本当に追われて大変な思いをしている真最中でございます。生徒、保護者そして市民の皆様本当に大きな不安を与えたということで、学校、教育委員会の信頼が地に落ちてしまい、とても残念に思っております。

併せてこれも先週末からですが、連日の熊騒ぎですね。市内で熊が2頭射殺されて、人身被害も起きているということで、学校の方は登下校に大変配慮し、集団下校等をしている状況であります。今年度に入ってから、コロナ禍で消毒とか検温ということで、学校は春からずっと手が取られているんですが、併せてこういうようなことが今起こって、そして実りの秋ということで、しっかり子ども達に力を付けないといけないということで、教育委員会としても、全力をあげて学校に支援をしていかなければならないと改めて思っております。目の前の仕事をひとつひとつ着実にこなして、教育の成果を上げて信頼を取り戻してまいりたいというふうに思っているところでございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

それでは議件に入っていきたいと思えます。本日は審議事項はありません。報告事項は7件です。報告第52号、教育を軸にした地方共創に向けての包括連携協定の締結について渡部課長お願いいたします。

- 報告第52号 教育を軸にした地方共創に向けての包括連携協定の締結について
渡部課長 資料に基づき説明

○山田教育長 これについて何かご意見、ご質問ございませんか。

○篠原委員 探求型の学びの場の整備を目指したということで、大変素晴らしい取り組みだと考えております。主な施策についてと書いてあるんですが、この点についてもう少し詳しく教えていただけないかなと思います。例えばフェロシッププログラムと書いてあります。フェ

ローシッププログラムとは何かというと、NPO法人から原則2年間、学校現場に教員として配置するということですが、それは当然加賀市の独自の予算で配置することになると思うんですが、どういう規模で配置されるのかということとか。それから義務教育学校の検討と書かれていまして、これは今般の学習指導要領の改訂において、探求型の教育を実践するということが大変重要視されていますので、それは大変素晴らしいことだと思っております。現在、橋立小中学校が小中一貫の同じ校舎の中で授業をしておりますけれども、他にも小中一貫教育、いわゆる義務教育学校を増やしていくつもりがあるのかなのか。例えば珠洲市なんかでは、義務教育学校がほとんどの学校で作られているということをお聞きしておりますけれども、そういうことを考えていくのかいかなのかということも、現状の中で、9月に締結したばかりなのでお答えにくいかもしれませんが、わかる範囲で結構ですので教えていただきたいと思っております。

○山田教育長 渡部課長、お願いします。

○渡部課長 今後、実施に向けて検討していくことになるんですけども、現時点で具体的な話までいっていないところがありまして、一応こういった目標を掲げて、フェローシップの教員についても当然予算のこともありますので、今後詰めていくことになると思います。現時点ではこういったことをやっていきたいという内容であります。

○篠原委員 今年度の予算要求の中で、次年度に向けて具体的にこのことがかたちになって現れるということで理解してよろしいでしょうか。

○渡部課長 来年度には何かしらかたちにできることをしていかないといけないと思っておりますので、今年度これから作る予算の中で検討していきたいと考えております。

○篠原委員 連携協定の締結ということで、期間はどれくらいの間を見込んでいらっしゃるんですか。

○渡部課長 連携協定はとりあえず令和5年3月31日までになっておりますが、もちろんそのあとも延長することもあります。

○山田教育長 他、ございませんか。

○山下委員 新しい教育の在り方について、とりあえず進めようというかたちで締結されて、まだ具現化はされていないと思うんですけども、この Teach For Japan についていろいろと検索をかけてみますと、立派なチラシ、パンフレットがホームページにあがっております。Teach For Japan が今やっている活動としては、基本的には自治体が個別に教師となる方を雇用し、その方を学校現場に送り込む、そして2年間研修をするとあります。となると、今の学校の先生方で県の採用で入ってくる方との整合性とか、それからどれくらいまで専門知識を持ったフェローという方が、教育現場に意見をされるのか。そういった具体的なものはでていないと思うんですが、それを策定しなければならないのかなと思います。まずは主な施策については、たぶん教育大綱とか大枠を定める中での頭脳として協力いただくのかなとか、義務教育学校として9年間通しのかたちでのノウハウをいただくのかなとか、そして最終的には現場へ入っていただくのかなとか、そういう大枠がある程度見えているのかなということをお聞きしたいですし、今こういったNPO的な教育に携わる方々、特に若い世代で一生懸命にやられているグループがあると思います。Teach For Japan を選ばれた何かしら理由があるのかなと、この2点ご質問をさせていただきたいと思っております。

○山田教育長 梶谷局長、お願いします。

○梶谷局長 先に選定の方からお答えさせていただきます。こういった教員の資格は持っていないけれども、社会へ出て専門知識がある方を入れていくという文部科学省の制度、特別免許なんです、これは昭和63年にできているんです。ですけれども全国的に見て、導入実績がすごく低いです。平成26年になぜ採用が進まないのかということで、全国的な基準が各都道府県の教育委員会で採用ということになり、その基準や検定の在り方みたいなものがないため、文部科学省が指針を示しました。文部科学省は各都道府県に積極的に活用するように、あと周知に努めるようにとっているんですけれども、現場ではなかなか進まないという中で、このTeach For Japanの活動が、文部科学省によって特別免許の実績の中でこういう団体がありますよと紹介されていたんです。そんな流れもありまして、今回、提携を結ぶようになりました。実際に今考えているのは、とりあえずフェローを学校に入れたい。一番簡単な例でいきますと英語ですね。例えば飛行機の客室乗務員や貿易関係で働いている方が例としては一番多いかたちになります。加賀市ではプログラミングもやっています。探求型ということで、学習するにはそういった知識のある方、学校だけではなくて、実社会と繋げていける方を入れたいということで、今のところフェローシップが一番課題になっているかなと思っております。

そして義務教育学校なんです、橋立は小中連携で、学校も併設校ということで、建物も一緒なんです、別々の学校になります。考えられるのは、将来的に橋立は連携からもう一歩進めて、9年間の新たなカリキュラムをやりやすいかなと思っております。加賀市の中でモデルとなるとやはり橋立になるのかなというふうなことで、こちらの方も検討課題にあがっております。今すぐ変えていくという考えはないんですけれども、候補にあるということです。

教育大綱と基本計画ですけれども、令和4年度に新たに10年、教育大綱も教育振興計画の年に合わせて策定しており、同時に策定し直すという時期にもなっていますので、そういったときには全国の動きなども教えていただいて、参考にさせていただきたいと思っております。先ほど言いましたように、本当に具体的なことは早急に詰めなければいけないと思っております。もう予算要求時期なので、そこには反映させていかなければならないと思っております。ご報告は引き続きさせていただきたいと思っております。

○山下委員 Teach For Japanのホームページ等々を見ていて、また検索をしてみても、まだTeach For Japanの活動が大きく見えないんですね。なるべく具現化されていく段階で、実際に学校現場に入っていかたちであれば、学校指導課とのいろんな整合性とか、色々と細かく精査しながら進めていただければと思います。

○山田教育長 他、ございませんか。

○佐野委員 9都道府県41名のフェローの方が活動しているとあるんですけれども、その中で実績というか、入ってよかったなど、そういうお話はあるんですか。

○山田教育長 梶谷局長、お願いします。

○梶谷局長 ホームページではある程度紹介もされていますが、今Teach For Japanの代表をされております中原さんもフェローとして現場に出た実績もあります。現在、福岡県の方で導入が進んでいまして、学校の方と市教委、県教委とも連携ができているということでございます。小学校では英語、中学校でも英語、数学、社会、理科、技術、体育に入っております。体育系もトップレベルまで行かれた方が指導した実績があります。

○山田教育長 他、ございませんか。よろしいですか。

続きまして報告第 53 号、加賀市高校魅力化コンソーシアムの設立について渡部課長お願いいたします。

- 報告第 53 号 加賀市高校魅力化コンソーシアムの設立について
渡部課長 資料に基づき説明

○山田教育長 これについて何かご意見、ご質問ございませんか。

○山下委員 市内の高校進学率が減少していることに対してのこういった会が設立されることは大変有難いことですが、実際の活動内容の中で、高校の魅力化コンソーシアムという割には、高校自体に対する魅力をアップするような内容にはなっていない気がします。就職とかの部分であって、高校自体の魅力アップみたいな、そういった内容は検討されなかったんでしょうか。

○山田教育長 渡部課長、お願いします。

○渡部課長 先進地の事例なども参考に進めていくことになるんですが、先進地の例では総合的な学習を活用したものとか、あるいは留学、要するに他の自治体から来る生徒たちのための寮とか、あるいは公営塾といたしまして、学力向上プログラムといわゆるゼミみたいなものを組み合わせた学習塾みたいなものを作ったりですとか、そういったことをしておりまして、こういったことが魅力化にも繋がっていくのかなというふうに考えております。

○山田教育長 他、ございませんか。よろしいですか。

続きまして報告第 54 号、加賀市立小中学校における教員の勤務時間集計結果（令和 2 年度上半期）について公下次長お願いいたします。

- 報告第 54 号 加賀市立小中学校における教員の勤務時間集計結果（令和 2 年度上半期）について
公下次長 資料に基づき説明

○山田教育長 これについて何かご意見、ご質問ございませんか。

○篠原委員 今年度の上半期の勤務時間の集計結果についてご説明をしていただきましたが、やはり一番気になるのは、80 時間を超えている人の数です。中学校では 100 時間超えも出てきています。毎年の勤務時間調査を始めてからずっと減っていません。今、何点かの理由の説明がございましたけれども、やはりこういうかたちで 80 時間を超えている、もっと言えば 100 時間を超えているということはあってはならないと思っております。やはり一人の先生に業務が偏っているのではないかとということが、この結果だけを判断してもよくわかりますので、そういうことのないように、校長先生を通じて、きちんとした勤務時間の中での業務をしていただきたいです。この状態を続けていけばいろんな問題点が出てきます。その問題が起きてからでは手遅れなので、小学校は 100 時間超えがないのでちょっと安心しているんですが、それでも 80 時間超えはあります。中学校は部活動が大きなウエイトを占めているのかなと感じておりますけれども、それもきちんとした業務の精選をすることを努力していただきながら、できるだ

け時間外勤務が減るように重ねて教育委員会からご指導していただき、そして現場の校長先生方からはなんでこんなに多くなっているのか、生の声を聞いていただいて改善に努めていただきたいという、これは私のお願いです。よろしくお願いいたします。答弁は結構です。

○山田教育長 他、ございませんか。

○山下委員 7ページの表1で平均の内訳はわかりました。80時間、特に100時間を超える方がほぼこういった数字で、これについて校長先生なり教頭先生が、どういった時間で100時間を超えてしまっているのかという個別の調査を行なっているのかどうかということです。

それからこの後の山中中学校の問題にも少し関わってくるのでちほどお話ししようと思ったんですが、先生方の縦ではなく横のつながりですね。その辺で100時間を超える先生方の業務を少し分けられるような横のつながりができているのかどうか。それぞれの学校で違うと思うんですが、それが非常に重要だと思います。さすがに100時間超えになりますと、1日何時間の残務になるのかということを経日考えると、大きなストレスであったり、いろんなフラストレーションが溜まってくることもつながってくると思いますので、その辺の現状を把握している部分があればお話ししたいと思っています。

○山田教育長 公下次長、お願いします。

○公下次長 教育委員会としてもこの数字は本当にすごく心配しているところです。今年、県の方でも80時間超えをできるだけなくすことがひとつの目標となっておりますので、各学校長にもその話はしています。各学校の方から時間外の状況があがってきておりますので、学校長はどのような内容で、どのような点で時間がかかっているのかは把握しておりますし、こちらも聞いております。そこで学校長と教育委員会とも状況の把握と対応についての話もしております。山下委員がおっしゃったように大事な横のつながりの部分、業務の平準化ということで、どういことができるのかという話の中で、特に教頭先生からも職員室の中の様子もお伺いしているので、その情報を公開しながら、学校の中での対応とか、あるいは今回PCの活用なんかも利用できると思いますので、横での平準化ということを特に学校には申しております。

○山田教育長 他、ございませんか。よろしいですか。

続きまして報告第55号、プログラミング工作コンクールの表彰について公下次長お願いいたします。

- 報告第55号 プログラミング工作コンクールの表彰について
公下次長 資料に基づき説明

○山田教育長 これについて何かご意見、ご質問ございませんか。

今年度は夏休みが2週間しかなかったもので、例年に比べて出品数は少なかったんですが、例えば佳良賞の川畑くんは、地域のものづくりラボに来ていらっしゃる方の協力を得たりしながら、一生懸命取り組んでいた様子が伺えました。やはり興味を持つ子ども達を育てていくこと、そしてここで表彰してさらに興味を持っていただくというふうなことで進めてまいりたいと思っております。

続きまして報告第56号、嶋田うれ葉 講演会について宮下課長お願いいたします。

- 報告第56号 嶋田うれ葉 講演会について
宮下課長 資料に基づき説明

○山田教育長 これについて何かご意見、ご質問ございませんか。よろしいですか。
続きまして報告第57号、加賀健康グリーンパークの利用実績について田中課長お願いいたします。

- 報告第57号 加賀健康グリーンパークの利用実績について
田中課長 資料に基づき説明

○山田教育長 これについて何かご意見、ご質問ございませんか。よろしいですか。
続きまして報告第58号、山中中学校教職員に係る事件について公下次長お願いいたします。

- 報告第58号 山中中学校教職員に係る事件について
公下次長 資料に基づき説明

○山田教育長 本当に詳細なところについては捜査中ということで、説明申し上げられないところもありましたが、今の説明について何かご意見、ご質問ございませんか。

○山下委員 職員の綱紀肅正ということが問われるんですが、どんどん締め付けというものなかなか難しいというのは、昨日も校長先生とお話をしていたんですが、もちろんこれはそれぞれの先生方の考え方によるものですが、それよりも先ほど申しました先生方の横の繋がりを重視するために、何かしら各学校でのガス抜きというか、そういう話し合える先生方の体制があるのかどうか。それからスクールカウンセラーの先生方を配置するにあたって、もちろん山中中学校の生徒さんのショックが非常に大きいものだと思いますので、これは最重要として対応しなければと思うんですが、今、他の加賀市内の小中学校の先生方に何かしらのフラストレーションが溜まっている部分がないのかということを確認していただいて、これで逆に押さえ込んでしまうと、今度はメンタルをおかしくしてしまう先生が出てこないとも限らないわけでありまして。今回を機に一度先生方の個人のメンタルをしっかりと開放できるようなカウンセラーであったり、また学校内でも仲が良い先生とか、そういうことの構築を促すような指示ができればなということをおもっております。山中中学校に関しては、校長先生はじめ先生方が一生懸命生徒さん達のアフターケアを出来るだけ綿密に細かくできるように、校長先生は常に校長室に待機しているということをございました。これはまずあり得ないと思っていた事態が起こったわけですが、実際に起こってしまった以上、どの学校でももしかしたらあり得るのかもしれないと思いますし、そういう先生方のガス抜きのようなことができる場がどこかにあればいいと思いますし、もちろんこれは憶測でございますので、その先生がフラストレーションが溜まって爆発したのかどうかわかりませんが、そういうメンタル的な先生方のケアができる場を作ることが今後の犯罪防止につながるのかなという意見でございます。以上です。

○山田教育長 公下次長、お願いします。

○**公下次長** 校長会等でも風通しの良い職員室ということを常に言っている中で、学校の中での横のつながりとか、それから先輩後輩の先生同士の良いアドバイスの関係とか、そういうことが大事だということも伝えていきながら、職員の様子とか、そういう点について加賀市教育委員会でも注意していきたいと思います。ありがとうございます。

○**山田教育長** メンタルの部分に関しては、夏の全員研修でも、保護者のトラブルとか先生方のメンタル・ヘルスケアも専門の先生の講演会を開いて、そのあとに各学校で先生方が座って自由に意見交換ができる場を設けようということで学校で取り組んできました。そういう雰囲気を作るように努めてきたところではありますが、やはり完璧ではなかったし、また個性というものもありますから、そういう場で話をできる人とできない人もいるので、また管理職に負担をかけるようですが、アンテナを高くして先生方の様子を見ていただきながら、向こうから話しかけてこなかったら、こちらから話しかけていくことが組織として大事だという話をこの前はさせていただきました。校長会でも日頃からそのようなことは伝えてきました。すべて解決というわけにはいきませんが、そのように努めていくことが大事だと思っております。

他、ございませんか。

○**疎委員** 今のコロナの状況は、とても珍しいことで、誰もこのようなことになるとは思ってなかったと思うんですが、学校現場でもいろんなストレス、今までしなくてもいいようなことに気を使わなくちゃいけなくなって、みんな平常心ではないですね。次は何が起こるのか戦々恐々としながら、なんとか日常を取り戻したいという状態でやっていると思うんですが、やはりそういうことも少しはあって、いろんなことに目が行き届かない部分もあるんですかね。

○**山田教育長** 例えば今、マスクをして喋っていますよね。先生方が教壇に立って子ども達相手にマスクをして喋ること自体も、声がこもって伝わりにくいところもあるらしいので、そういうようなストレスはあると思います。それはあると思いますが、だからといって許されることではありませんので、そこはしっかりと指導していかなくてはいけないと思いますし、先ほどもいいましたように、アンテナを高くして、お互いにケアし合うことが大事かなと思っております。一概にこうだということはなかなか言えないですね。本当に大きな事件で、皆さん思いはたくさんあると思うんですが、他にご意見やご質問ございませんか。今後、このようなことが二度と起こらないように全力をあげて取り組んでまいりたいというふうに思っております。以上で報告事項は終わりました。

続いてその他に入ります。加南地区教育委員会連絡協議会研究大会について渡部課長お願いいたします。

- 加南地区教育委員会連絡協議会研究大会について
渡部課長 資料に基づき説明

○**山田教育長** これについて何かご意見、ご質問ございませんか。よろしいですか。

それでは以上で議件は終了しました。

この際ですから、委員の皆様から何かございますか。

○**篠原委員** 2点ほどお願いいたします。まず1点目ですが、今月の20日に文部科学省から全国の教育委員会に、学校の連絡をデジタル化してくださいという通知が出てきたということ

知りました。その理由としては、保護者からの連絡手段を紙からデジタルにして、ハンコをなくすと、そしてその代わりにメールなどを使って保護者の負担を減らすということで、それが先ほどから出てきている、いわゆる残業を少なくするための教員の業務改善、業務効率化にも役立つのではないかということが書かれておりました。加賀市は市長さんの強力なリーダーシップのもとに、スマートシティ構想というものを展開しております。そこで加賀市の中で現状、このようなデジタル化の例があるのかないのかというのがまず1点です。もしあるのならば例えばどんなものなのか教えていただきたいです。

それからこれについて加賀市は今後どのようなかたちで取り組んでいくのかというのが2点目です。お願いいたします。

○山田教育長 梶谷局長、お願いします。

○梶谷局長 加賀市全般についてですが、特に多いのがマイナンバーカードとの連携ということで、申請率が60%を超えております。今のところは国民健康保険の人間ドックの補助金の申請がスマホでできるようになったと、実例としては今のところ1件です。年度内に50項目ほどは連動したものでやるということで、その他ホームページ上や加賀ポータルで新しい情報が出てくるということでもあります。個人との連携、まずはマイナンバーカードということで、学校では今のところ実例としてはありません。あと全般としまして、県の方で進めているんですけども、校務システムの導入ということがありますので、その中でまたいろいろできるかなと思っております。推進は通達通りやっていきたいと思っております。

○篠原委員 これは意見ですが、今お話がありました校務管理ソフト、これは県で統一するのかなと思ったんですが、これがなかなか前に進んでこないという状況ですよね。なんらかのかたちでこの管理ソフトを入れないと前に進みにくいんですが、一番大切なのは先ほどからお話をしている、教員の業務効率化というのが大きな狙いであるし、やはり加賀市はスマートシティということを標榜していますので、これは県の中でも先進的に取り組んでいただきたい。なかなか県の統一としての校務管理ソフトが決まりづらいんだろうと思うんですが、それもリーダーシップをとってぜひ推進していただきたいと思います。

もう1件、別件でお願いいたします。中教審の分科会の中間まとめの中に、小学校5、6年生における教科担任制というのが出てきています。加賀市においては、例えば音楽が堪能な先生がある学校で3年生以上は全部担当しているという事例も聞いているんですが、マスコミなんかを読んでみますと、例えば5、6年生をひとまとめにして、担任の先生が4名いたら、この先生は理科の先生、この先生は社会の先生とかたちで教科担任をしていると。それぞれのメリットがたくさん出てきているということで、やはり全教科を教えることは大切なことなんですが、どうしても高学年になると、教科の専門性が増してきますので、そのことについてぜひ先行的に取り組んでいただきたい。ぜひ小学校5、6年生の教科担任制の具体的な実践を教育委員会の方で進めていただきたいと思っております。また各学校の中で、こういうことを実際に先行的にやっている学校があるのかどうか。例えば英語はこの先生が全部やっていると、音楽はこの先生がやっているとというような事例がもしありましたら教えていただきたいです。近い将来に明確なかたちで出てくるんじゃないかと予想されますし、中教審の方では22年度に導入目標という見出しが出ていました。2022年度ですからそんなに遠くでもないわけですよね。ですからそういうことも併せて、調査あるいは今後の研究を加賀市教育委員

会として推進していただけないでしょうかという私のお願いであります。以上です。

○山田教育長 公下次長、お願いします。

○公下次長 どの学年でどういう先生がどういうかたちで入っているかというのは、こちらにもあがってきています。県との兼ね合いもあるんですが、今後進めることになっておりますので、こちらもしっかりと進めていきたいと思っております。

○山田教育長 県教委の施策としても進めていて、先進的に研究する学校の割り当てもありますので、その成果を見てまたどんどん増やしていけたらということでございます。

他、ございませんか。

○公下次長 先ほども出ました熊の件について、学校の対応について少しだけ皆さんにご協力いただくことになると思いますので、ご連絡させていただきます。熊の件がありましてから、市の方でも全学校の方に安全確保の文書を流しております。各学校の状況もありますので、すべて統一できているわけではないんですが、3点あります。1つ目は保護者や見守り隊の協力を得ながら登下校の巡回の強化、職員が回っている学校もあります。2つ目は明るいうちの下校を促す、あるいは必要に応じて保護者に送迎の依頼、そして3つ目が強制ではないんですけど、児童生徒に熊除けの鈴の携帯の奨励とか、各学校での状況によって対応してくださいということを促しております。今月はじめに熊の件があってから、地区によっては部活動をその日は中止にしたり、集団下校をしたり、あるいは保護者に送迎をお願いしたりとか、そういう点での対応を地域ごとでとっておりますが、全体ではその3つを学校の方をお願いしているところであります。今後11月2日までこの対応をして、そのあとまた様子を見て対応していこうと思っておりますので、ご承知ください。

○山田教育長 このことについて何かございますか。

○佐野委員 対策として各学校に対応を任せているということなんですが、作見小学校はPTAでまとめて鈴を購入すると聞いたんですけど、自分で買ったり探したりすると、みんなまとめて買うので、今手に入らないということも聞くんです。あとどういう鈴がいいとか、そういうこともわからないらしくて、またそういうものもわかれば協力してあげてほしいなと思います。

○山田教育長 教育委員会ではまだ把握していませんね。新聞を見ると熊鈴が特需ですごく売れているとか、値段も数百円から千円台とか。共同購入すると手に入りやすいんですかね。

○佐野委員 鈴と言われても、普通の鈴しかわからないみたいで、小さいものから大きいものまであって、音もやっぱり違ったりもするので、付けるのであればやっぱり効果があつた方がいいと思うんですけど、手に入りにくいということを聞きます。

○山田教育長 我々も情報を集めないといけないですね。

○篠原委員 作見小学校は全校配付だと私もマスコミで知ったんですが、他の学校でもやっているところはありますか。山代中学校なんか今非常に出ているとお聞きしています。山中小中学校も山に近いですから、東谷口小学校も、そういう山に近い学校もありますので。

○山下委員 昨日、山中中学校の校長先生と話していたときは、鈴は持つように指示はしていますということで、学校で出しているという話ではないと思います。

○山田教育長 公下次長、いかがですか。

○公下次長 全体の把握はしていないんですが、学校によっては以前から個別で持っている学

校もいくつかあるとは聞いていますが、今回を機会に購入したということはありません。

○篠原委員 何らかの取り組みをしないと、ちょっと心配ですね。どこに出てくるかわからないというのが今年の熊の動向なので。

○山田教育長 情報収集と、市として奨励した限りはどういう鈴がいいとかいう情報は持っていればいいかなというふうに思います。市で統一というよりも学校ごとに対応していただければいいのかなと思います。奨励は市教委としてはしたいと思っております。

他、ございませんか。よろしいですか。

なければ次回の教育委員会定例会の日程について渡部課長お願いいたします。

● 次回教育委員会定例会日程について

渡部課長 説明

○山田教育長 11月25日水曜日の13時30分からということで予定に入れておいてください。

それでは以上で第14回教育委員会定例会を閉会いたします。

御苦労さまでした。

以上、会議の顛末を記載し、会議録を作成する。